

荷姿の物を起因物とする激突されの死亡災害発生事例（1999-2021年）

発生年	発生月	時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
2020	9	8 ～ 10	工場建設現場において、小型ボイラーをハンドリフトに乗せて搬入作業中、搬入路上の段差を乗り越えるため、スピードローラー（ころ）に乗せ換えていたところ、当該小型ボイラーが転倒し、被災者に激突した。	30302	10 ～ 29
2020	10	20 ～ 22	10トン車より冷蔵商品を配送していた被災者が、災害発生場所において、その配送車からフォークリフトを用いて荷下ろし作業をする際に、その積み荷を被災者が手前に引き出したところ、勢いあまり積み荷が被災者側に傾き、被災者の頭上から激突し被災したものの。	40301	50 ～ 99
2020	12	12 ～ 14	地上からの高さが110cmのトラッククレーンの荷台上で、資材倉庫2階から投下された重さ約16キログラムの断熱材を荷台上に並べる作業を行っていたところ、投下された断熱材が荷台上で跳ね上がって被災者に激突し、被災者が荷台上から墜落し、頭部を地面に強打したものの。	80109	10 ～ 29
2019	6	18 ～ 20	被災者は納品のため、トラック荷室からテールゲートリフター（以下、「リフター」という。）を使用し、飲料水等の商品が入ったロールボックスパレット（以下、「かご車」という。）を荷卸ししていた。被災者は、かご車2台を荷室からリフターの昇降板で、地上に卸していたところ、昇降板が接地する直前に、かご車が転倒し、その下敷きとなったものの。	40301	100 ～ 299
2017	9	16 ～ 17	ボール盤（高さ236センチメートル、重さ850kg）の移設ため、3個のチルローラー（35×23センチメートル、耐荷重3t、ボール盤前方1箇所、後方2箇所）に載せ、4名の労働者で押して移動させていたところ、ボール盤が突然転倒し、被災者の頭部に激突した。被災者はボール盤の下敷	30302	100 ～ 299

			きにはなっておらず、救急搬送されたが、頭部を強く打ったため死亡した。		
2016	2	15 ～ 16	マンションの機械式立体駐車場解体現場において、解体した部材を移動式クレーン（つり上げ荷重10t）でつり上げたところ、既存鉄骨梁に引っ掛かりつり上げることが出来なくなったため、被災者が鉄骨梁上に行きバールにてつり荷を引き離したところ、つり荷が振れて被災者に当たり、約5m下の地面に墜落した。	30209	1～ 9
2016	4	7 ～ 8	車両系建設機械のバケットを小型移動式クレーンを用いて、当該移動式クレーンの荷台へ積込む作業を行っていた。バケット側のアタッチメント接続用のピンホールへ単管を通し、当該単管にフックを掛けてつり上げ、地切りした際に、重心が移動し、バケットが被災者側に回転、被災者の足下がすくわれると同時に単管からフックが外れたため、荷とともに被災者が用水路へ転落し、法面と当該バケットの間にはさまれた。	70101	1～ 9
2015	1	14 ～ 15	ごみ処理施設建設工事現場のエネルギー回収推進施設の3階にある電気関係の主幹制御室に台車に載せた制御盤（高さ2.35m×幅1.2m×奥行0.8m、重量350kg）を労働者4名で台車から降ろす作業中、制御盤が転倒してその下敷きとなった。	30302	10 ～ 29
2014	3	7 ～ 8	段ボールの原紙となる筒状のロールを、トラック荷台床に据え付けられた手工具で、荷台の端まで移動させていたところ、ロールが被災者に向かって倒れ、下敷きとなった。	40301	10 ～ 29
2014	4	9 ～ 10	トラックからフォークリフトを用いて精密機械を降ろす作業を行っていた際、機械をフォークリフトで持ち上げたところ、機械が落下し、フォークリフト付近にて、誘導作業を行っていた被災者に当たった。	80209	10 ～ 29
2014	9	15 ～ 16	揚貨装置を用いて、外航船の船倉から原木を荷揚げ作業中、約10本の原木をクラブバケットでつかみ、巻き上げたところ、原木が回転し、原木の端の部分が船倉上部で揚貨装置の合図等を行っていた被災者に当たった。	50202	10 ～ 29
2014	12	9 ～	トレーラーで運搬した紙ロール9本を荷締めした際、左右のあおりの内側に止めたラッシングベルトの左側だけを外し、地上で車両左側のあおりの止め具を後部、前部の順で外したところ、ロール紙の1本が荷台から地上に転が	40301	10 ～

		10	り、2本目を手で支えようとして、ロール紙の下敷きとなった。		29
2013	9	22 ～ 23	荷主先のプラットホーム内において、4トントラックの荷台から台車に乗った荷物（ピザ生地ミキサー、約300kg）を被災者を含む2名で下していたところ、台車の前輪がプラットホームの溝（幅9.5cm、深さ1.3cm）にはまり、荷物がバランスを崩して転倒し、台車前方でしゃがんで荷物を移動させていた被災者に激突した。	40301	10 ～ 29
2013	6	14 ～ 15	段ボール箱受取作業に従事していた労働者は、三段積みパレット（高さ約45cm）を足場にしてコンテナ後部ドアを開け、さらに荷の仕切り板としてあるベニア板を固定していたロープの2本目を鉋で切った際、荷崩れし、ベニア板ごと被災者に激突した。被災者は仰向けに倒れ、死亡した。	10101	100 ～ 299
2013	2	17 ～ 18	ドラグショベルのブーム（3.95t）をドラグショベル（機体重量23t）を使用してトラックに積み込む作業を行っていたところ、ブームがバランスを崩して横転し、荷台にいた被災者がトラックの荷台とブームの間に頭部を挟まれた。	80409	10 ～ 29
2012	12	17 ～ 18	パワーゲート付きのトラックから、キャスター付きの台車に載せたコンピューター機器を梱包した荷を下ろすため、被災者が荷の前に、他の作業者が荷の後ろに分かれて、荷台からゲート部まで移動しようとしたところ、予想を超える速度で動き、トラックから荷が落ちそうな状態になり被災者が荷に押し出されるようになったため、被災者がゲート部から降り、荷を支えようとしたが支えきれず、荷の下敷きになった。	40301	1～ 9
2012	8	11 ～ 12	資材置き場前の道路において、トラック荷台へフォークリフトでH鋼を積込む作業を行っていたところ、積込んでいたH鋼が崩れ、荷台でH鋼の下へ角材を敷く作業等を行っていた被災者の頭部に激突した。	40301	1～ 9
2010	5	14 ～ 15	被災者は、4t冷蔵車からボトルコーヒー等の商品が入ったカゴ車（重量約330kg）2台をパワーゲートに載せて、パワーゲートの先端をホームに降ろし、ホーム上に被災者がカゴ車の前方で荷を引っ張って移動中、カゴ車が前方に倒れ、ホームとカゴ車に挟まれ死亡したものの。	40301	30 ～ 49

2009	12	10 ～ 11	回収した鉄スクラップを入れる鉄製の箱（220×418×高さ79cm：自重1t＋スクラップ3t計約4t）を運搬船に載せるために岸壁に設置したデリック（つり上げ荷重12t）でつり上げ搬入していたところ、当該箱を搬入したスクラップ上の不安定な場所におろしたため、玉掛け作業を行っていた被災者がつりチェーンを外した後、移動していた時に箱がすべって、被災者に激突し、当該箱と船の隔壁の間にはさまれた。	80109	1～ 9
2009	6	16 ～ 17	工場の原料倉庫内において、仮置きした鋼鉄コイル（外径82cm、内径48.5cm、幅1.07m、重量約2.1t）付近に、無線操作式天井クレーン（定格荷重22t）で別の鋼鉄コイル（外径78cm、内径49cm、幅1.165m、重量約1.8t）の積み付け作業を行っていたところ、当該鋼鉄コイルが被災者に激突し、仮置きしていた鋼鉄コイルとの間にはさまれた。	50101	30 ～ 49
2008	4	12 ～ 13	事業場駐車場において、トラック（最大積載量13.2t）からトラック（最大積載量3.3t）へ、荷の積載されたカーゴ台車（重量約300kg）をトラックのパワーゲートを利用し積み替え作業をしていた。その際カーゴ台車が転倒して台車の積み替え作業を行っていたトラック運転手が下敷きとなった。	40301	100 ～ 299
2008	7	8 ～ 9	揚貨装置（最大能力150t）を用いて、船艙（ハッチ）に金属コイル（重量16t）2個を積み込む作業において、当該金属コイルが壁面のダンネージ（壁面緩衝材）に当たりダンネージがはがれた。はがれたダンネージを取り付けるために当該金属コイルを移動（右旋回）したところ、金属コイルが振れて被災者に激突した。	50202	50 ～ 99
2008	1	15 ～ 16	資材置き場で塗装をされた柱材（重量約1.2t）を納品するため、作業員2名と運送会社作業員2名で積載形トラッククレーンを使用して荷台へ柱材の積み込み作業をしていた。3本目の柱材を1本目の柱材の上に重ね、柱材の座り具合を確認していたところ、突然バランスが崩れて柱材が回転し、玉外し作業をした被災者が逃げ遅れて柱材の下敷きになりトラックのあたりとの間にはさまれた。	11209	1～ 9
2008	11	13	同社の資材置場で、杭打用に使用するケーシングパイプ（長さ6.5m、直径66cm、重量約700kg）をワイヤーでつり上げて移動しようとしていたところ	30199	1～

		14	ろ、ケーシングパイプの先端が運転席に激突した。		9
2007	7	13 ～ 14	山の斜面（勾配約30度）での木材搬出作業中、伐倒木の荷かけ作業を完了した被災者から無線でロージングブロックの巻き上げの連絡を受けた集材機運転士が、ワイヤーを巻き上げたところ、ロージングブロックが切り株等にかかったため、被災者に確認するよう無線で連絡したが、被災者からの応答がなかったことから、被災者を捜したところ、切り株から約5.2m離れた位置で被災者が倒れていたところを発見した。	60201	1～ 9
2007	7	3 ～ 4	運送業務に従事する被災者は荷を2tトラックに積み込むに当たり、荷を積載したかご台車（総重量約530kg、高さ1.65m、幅1m、奥行72cm）を手で引いて、冷蔵倉庫のプラットホームから同所に直付けしたトラック荷台に移動させていたところ、かご台車が転倒し、下敷きとなった。	40301	50 ～ 99
2007	5	14 ～ 15	加工センターにおいて、異形棒鋼（1本50.4kg）を15本まとめたものをつり上げ荷重2.8tの橋形クレーンでつり上げ、運送会社のトラックの荷台に乗せる作業中、荷をつり上げた際に一端のワイヤロープがクレーンのフックから外れ、地面に落ちた反動で他端が跳ね上がり、跳ね上がった異形棒鋼の先端部分が被災者に激突した。	11209	10 ～ 29
2007	7	5 ～ 6	8.8tトラックで自動車部品を運搬していた被災者が、荷卸先において自動車部品を積んだ車輪付のかご台車（総重量約270kg）を同トラックの荷台から荷卸し作業中、地面から13cm上で停止させたテールゲートリフター上のかご台車を手前に引いたところ、かご台車が倒れ、被災者は、かご台車と地面の間に前屈姿勢ではさまれた。	40301	10 ～ 29
2007	9	13 ～ 14	トレーラーで荷を運送する業務において、荷おろしのため、ロープを解いた後、トレーラーの荷台の横に立って、解いたロープを収納していたところ、2段に重ねて積まれて荷台に載っていた荷のうち、上の荷（重さ約550kg、大きさ約100cm×70cm×高さ100cm）が荷台から落下して、激突された。	40301	1～ 9
		9	被災者他7名により、デッキクレーンを使用して岸壁から外国船の船倉への		50

2006	6	～ 10	めっきコイルの荷おろし作業を行っていた際、玉掛け及びクレーン合図を行っていた被災者はコイルとコイルにはさまれた。	50202	～ 99
2006	6	3 ～ 4	人造黒鉛電極製造過程における成形品（円筒形、直径64cm、長さ290cm、重さ1.58t）の端面を研磨する工場において、成形品の搬入箇所にある成形品を昇降させるコンベア付近にて、通常なら傾斜レールを転がってくる成形品が表面の凹凸等により止まり、被災者がレール内に進入したところ、成形品が動き出し、これとコンベアに挟まれた。	10909	50 ～ 99
2006	5	13 ～ 14	被災者は搬送先において単独で荷下ろし作業を行っていたが、倒れた荷の下敷きとなっているところを発見された。荷は、コンプレッサーの防音材を入れた箱が10個載った台車（台車を含む総重量311kg）で、当日この台車を10台下ろす予定であったが、9台目の台車を下ろす際に被災した。	40301	10 ～ 29
2006	4	16 ～ 17	被災者がつり上げ荷重2.8トンの橋型クレーンを使用して1.6トンのビル壁用コンクリートを玉掛けし、運搬していたところ、当該荷とクレーンの支柱部分に挟まれた。	10901	30 ～ 49
2006	1	15 ～ 16	天井クレーン（2.5トン）を用いて板ガラスの入ったパレット（総重量約1トン）を保管場所から作業場所へ運ぶため、被災者は当該パレットに玉掛け用ワイヤロープを掛けていたところ、パレット束と固定されたパレット束との間に挟まれた。	10902	50 ～ 99
2005	10	16 ～ 17	掘削工事で出た土砂の運搬のため、土砂が入れられたつり紐付きの袋を移動式クレーンでつり上げ、トラックの荷台に袋の中の土砂を移す際に、袋の中に土砂が残ったため、荷台上にいた被災者が土砂を袋から出そうと移動式クレーンのジブを起こすように合図したところ袋が被災者に激突し、被災者がトラックの荷台から墜落した。	30106	10 ～ 29
2005	12	16 ～ 17	コンクリート打設作業を行うため、ドラグ・ショベルのバケットにつり下げられたホッパーの開閉バーを持ちコンクリートを地上に落とす作業中、ホッパーと擁壁との間に挟まれた。	30199	10 ～ 29
2005	12	14 ～	機械集材装置により伐木を土場まで運搬する作業中、伐木が被災者に激突し	60201	1～

		15	た。		9
2005	9	10 ～ 11	内装ボード製造ラインにおいて、原料投入作業を行っていたところ、原料投入ホッパーとフレコンバックとの間に挟まれた。	10901	10 ～ 29
2004	3	9 ～ 10	鋼板コイル（約8 t）を倉庫に保管するため、15 tの床上操作式クレーンでコイルを倉庫に搬入し、クレーンでつった状態でコイルの位置を調整していた際に、このコイルが、3つのコイルで2段にはい付けされたコイルに接触したことにより、はい付けされたコイルのうち下段にあったコイルが、近くでクレーン操作していた被災者の方向に移動し、移動したコイルと背後にあった別のはい付けコイルとの間に挟まれた。	170209	1～ 9
2004	8	9 ～ 10	被災者は作業講台上でトラックの荷台から鋼管を仮置場へ荷卸しするため、トラック荷台上で玉掛け作業を行っていた。玉掛けのため、鋼管の片端をいったんつり上げ、その下に板をかませた上で下ろしたところ、突然鋼管が転がり被災者に激突し、被災者は鋼管とともに荷台に転落し、鋼管の下敷きとなった。	40309	1～ 9
2004	9	11 ～ 12	天井クレーンでホッパーをつり上げ、車両積載形トラッククレーンの荷台に乗せようとして、荷台にホッパーを降ろそうとした時、つり荷がクランプから外れ被災者を直撃し、その反動で被災者はトラック荷台から転落した。	11209	10 ～ 29
2003	7	8 ～ 9	金属スクラップを持ち帰るため、金属スクラップを入れた鉄製の箱を移動式クレーン（つり上げ荷重2.9t）で荷台に積み込む作業中に、つり荷と移動式クレーンの車体との間にはさまれた。	11009	1～ 9
2003	5	15 ～ 16	シールド推進工事において、発進たて抗の8段目支保工の上段の腹起こし材（長さ8m、質量5tのH鋼）をいったん坑内に仮置きし、所定の位置に移動式クレーンで設置するためH鋼に玉掛けして地切りしたとき一端が土止め壁に掛ったので、体重をかけて外そうとしたときに、材がはね上がり激突された。	30110	1～ 9
		13	木造住宅新築工事において、2階桁上でクレーンで吊っている床合板を受けよ		

2002	9	～ 14	うとしたところ、床合板を結束していたナイロンスリングが切れて床合板が落下し、足場の歩み板に当たって方向を変えたため右足に当たった反動で1階へ墜落した。	30202	1～ 9
2002	6	9 ～ 10	停車させた4tトラックのパワーゲート上でコンテナ（約600kg）を降ろす作業中、地上約40cmまで降下させた時点でストッパーを外したところ動き始めたので、とっさに飛び降りて支えようとして下敷きになった。	40301	30 ～ 49
2002	4	14 ～ 15	国道をトレーラーで走行中、急ブレーキをかけたときに荷台に積んであった鋼材（L字鋼長さ約6m）が反動で前に飛び出して運転席後部を直撃した。	40301	10 ～ 29
2002	5	14 ～ 15	定期船の荷下し作業で、長さ9mの鉄筋5束（1束300本、1束の質量2.68t）を玉掛けし（2点吊り）、能力45tのホイールクレーンを使用してハッチを通過させるため荷を回転させたところ、荷の一端が船内の壁に当たって荷の回転が速くなり、輪木の片付作業を行っていた者が荷をよけきれずに荷に激突され、荷と船の壁との間に挟まれた。	50202	1～ 9
2001	8	19 ～ 20	停泊中の船に揚貨装置でドラグ・ショベル(9, 4t)を積み込もうとしたときに、船が重機の重さで約6度傾き既に積み込んでいた移動式クレーンが移動したため岸壁側に積み込んでいたタンクローリーに接触し、タンクローリーも移動してタンクローリーと船の壁との間に挟まれた。	50202	30 ～ 49
2000	4	11 ～ 12	海上コンテナから木製部材(板状)の束をフォークリフトで積み出していたときに、コンテナ付近に立っていた者が倒れてきた荷に腰から下部を挟まれた。	50201	10 ～ 29
2000	1	11 ～ 12	10. 5tトラックにフォークリフトで原木を積み込み、原木をワイヤーロープで荷掛けするため原木の上に上がっていて高さ約3. 5mの位置から地上に転落したところに原木1本(重量：150kgから200kg)が落下した。	10409	10 ～ 29
2000	4	8 ～ 9	積載形トラッククレーン(吊り上げ荷重2. 93t)の荷台に積み込んでいた産業廃棄物が入っているゴミバケツ(総重量推定2t)をクレーンで吊り上げて脇のダンプトラックの荷台に移し替える作業でダンプトラックのあおりにバケツを立て掛けて仮置きしたのち玉掛チェーンを架け替えるため荷台に乗ったと	150102	1～ 9

			きに、バケットがあおりから滑落し激突した。		
2000	5	23 ～ 24	ドラグショベルで坑内路盤用の敷き鉄板(質量1.6トン)を吊り上げたところ、泥が付着していたのでオペレーターが鉄板を上下に動かし泥を落とそうとしていたときに、スコップで泥を落としに近づいたところ、吊具のフックから鉄板がはずれて倒れてきて鉄板と側壁との間にはさまれた。	30102	100 ～ 299
2000	2	14 ～ 15	高さ約30mの立木を伐木する作業で、直径約40cm、長さ約14mの枝を移動式クレーンで吊りながらチェーンソーで切断したときに、切断した枝が振れて背後から頸部に当たった。	60201	1～ 9
2000	7	16 ～ 17	道路改良工事現場のU字溝布設作業において、ドラグショベル(機体重量：12t)のバケットに取り付けたフックに専用の吊り具で玉掛けして吊り上げ仮置きしようとしたときに、吊り具からU字溝がずり落ち、付近で型枠製作作業をしていた者の腰部に激突した。	30106	10 ～ 29
2000	1	9 ～ 10	被災者は、朝6時40分に車庫を出発し1件目の配達を終え2件目の配達先にて9時10分よりロール製品の納品のためフォークリフトをトラックに横付けし、製品をトラックからパレットへ移動させていたときに、バランスを崩して荷台より転落し、その直後落下したロールの下敷になった。	40301	30 ～ 49
1999	6	7 ～ 8	事業場内のトラックターミナルにおいて、同僚と清涼飲料水30ケース(約400kg)を積んだキャスター付台車をトラック荷台への積込んでいるときに、台車が倒れてきて激突された。	40302	30 ～ 49
1999	6	10 ～ 11	トラッククレーンに荷積作業中、2本吊りしたパイプサポートの束がバランスを崩して、激突された。	30209	10 ～ 29
1999	5	16 ～ 17	排水処理施設の解体撤去作業において、タンクの上半分を溶断し、移動式クレーンで吊上げて地切りした直後に荷が振れ、荷と単管手すりとの間に挟まれた。	30302	1～ 9

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_31.htmlに戻る。